



## ふかしんメッセージ③④ ー 校長から香住のみなさんへ ー

令和6年1月15日(月)

### 「大学入学共通テスト」

一昨日と昨日の2日間「令和6年度 大学入学共通テスト」が行われました。3年生のみなさんにとっては、この「大学入学共通テスト」から、いよいよ本格的な大学入試がスタートしました。2年生のみなさんにとっては、自分たちの大学入学共通テストまで残すところジャスト1年間ということになりますね。

能登半島地震から2週間が過ぎましたが、能登半島の受験生は「大学入学共通テスト」2週間前という受験勉強追い込みの大切な時期に被災し、受験どころではない状況となりました。被災した受験生の胸中を察するといたたまれない気持ちになります。そんな中にあっても被災した受験生は、極めて厳しい環境の下で、できる限りの受験勉強を精一杯頑張ってきて、金沢市内の試験会場での「大学入学共通テスト」に臨んだという報道がなされていました。被災した受験生のこうした逆境に負けない精神力に敬服するとともに、陰ながらエールを送りたいと思います。

大学入試本番の時期を迎えるたびに、私には思い出されることがあります。

以前勤務していた学校で、何年も離れた全く違う学年で、お互い知る由もない二人の生徒さんから大学受験が終わった時に、それぞれ手紙をもらったことがありました。何年も離れた全く違う学年の生徒さんでありながら、その手紙の内容が全くと言っていいほど同じ内容であったことに驚いた記憶があります。その内容は、

「・・・試験本番がだんだん近づいてくると早く試験日になればいいのと思うようになりまして。試験本番になったらこの受験勉強のきつさや苦しさを解放されるのだから、一日も早くこの受験勉強のきつさや苦しさを解放されたいと思いました。そして、いよいよ試験直前になると、不思議なことに『合格するとか、不合格とかもうどうでもいいな。合格とか不合格という結果よりも、18年間の人生の中でこんなにも勉強に打ち込んで頑張ってきたことはなかったから、今まで一生懸命死に物狂いで頑張ってきたことの全てを悔いなく解答用紙にぶつけてこよ

う!』そんな気持ちになりました。・・・」

というものでした。

そんなことがあるはずもないのに、この手紙の内容は同じ人が書いているのではないか！？と思えるほどその内容が見事なほど同じだったのです。この二人の手紙から、私は「受験勉強」の目指すべきところは何なのかということを知ってもらったような気がしています。

「受験」である以上、志望校に合格することを目指すことは言うまでもありません。しかし、**高校時代の貴重な時間を使って受験勉強に打ち込むということは、決して志望校に合格するためだけではないはず**です。以前にも述べたように、**志望校への合格は、あくまで自己実現という「目的」達成の通過点である「目標」であって「目的」ではありません**よね。受験勉強がただ志望校に合格するための「目的」になってしまったら、志望校合格によって「目的」は達成され、受験勉強という営みの全てがそこで完結することになってしまいます。二人の手紙にあるように、志望校に合格すること以上に、**この二人が到達した境地に至るまで頑張り抜くことで、自らの手で「受験勉強」を通して何かを掴むことにこそ高校時代の「受験勉強」の意義がある**のだと思っています。そして、この二人がそうであったように、この境地に至るまで頑張り抜くことによって、志望校「合格」という結果がもたらされるでしょうし、万が一、その結果が不本意なものであったとしても、合格・不合格を超えた大切な何かを手にするには間違いはないはずです。

3年生のみなさんは、ここから国公立大学の後期試験までの2ヶ月間という長い「闘い」が始まりました。**この2ヶ月間を最後の最後まで諦めることなく、粘り強く「闘い」抜いてほしい**と思っています。ここで私が言う「闘い」とは、他者との「闘い」のことを言っているわけではありません。それは言うまでもなく自分自身との「闘い」のことです。

思うような結果が出ずに諦めそうになった時、周りの友だちの進路が決まり始め焦りが出てきた時、試験の結果次第で進路先について妥協しそうになった時、こういう事態がこれからの2ヶ月間の中で起こるかもしれません。そんな時、少しでも早く受験生活の大変さやプレッシャーから解放されたいという気持ちから、諦めたり、妥協したりすることは簡単なことです。そして、私たちは諦めたり、妥協したりする時には、必ずもっともらしい理由や理屈をつけて自分自身を納得させようとしがちです。かつて、私自身がそうしてしまった強い後悔が今もあります。少し厳しい言い方になるかも

しませんが、こうした諦めや妥協は、みなさんの目の前にある大学受験という大きな課題から「逃げる」ことだと思っております。私の言う「闘う」とは、こうした目の前の課題から「逃げない」ことを言っているのです。「闘い」抜くとは、途中の結果がどうであれ、周りがどうなろうと、諦めそうになろうと、自分自身の初志を貫き、最後の最後までやり抜くことです。そして、最後までやり抜いた時に初めて、みなさんは自分自身だけの確かな何かを手にすることは間違いありません。そして、その「何か」が、これからのみなさんの人生の様々な場面において、力強い確かな自信となるはずですよ。

「受験」は、単なる進路実現のためのものではないと思っています。最後の最後まで「受験」にどう取り組んだか、そして「受験勉強」を通して何を掴むことができたか、そこにこそ「受験勉強」の大きな意義があり、だからこそ「受験」は、みなさんの人生におけるステージを上げるための、大切なイニシエーション（「通過儀礼」）と言えるのです。

3年生のみなさんが、最後まで最後まで、元気に、明るく、この受験生活を仕上げてくれることを願っています。

まだまだインフルエンザも流行っています。うがい・手洗いを徹底し、三度の食事と睡眠をしっかりとって、感染防止と体調管理に努めてください。

「健全な精神（＝「闘い」抜く気概・やる気）は、健全な肉体（健康な身体）に宿る！」です。

校長 深瀬 信也